

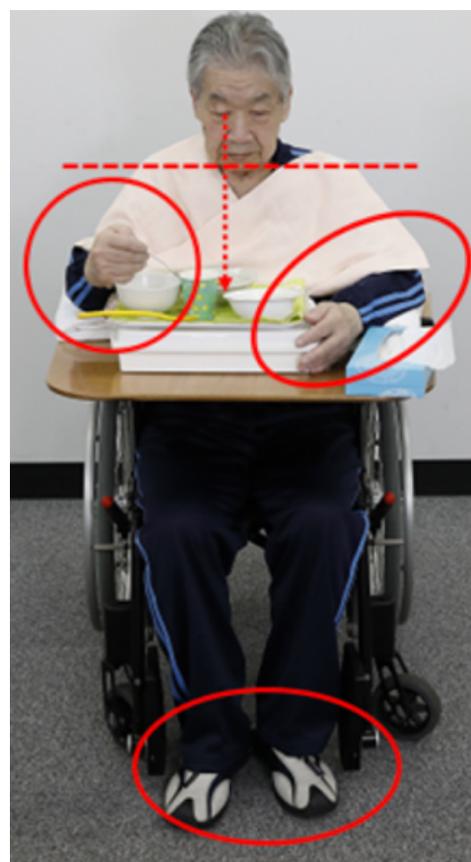
食事姿勢の調整について

ベッド上

- 骨盤後傾位となると胸部圧迫され呼吸を阻害し、頸部伸展位となってしまいます。
- 両手をテーブルの上に置き、上肢の安定を図ります。(片麻痺があっても行います。)
- テーブルは体幹と握り拳 1 個分の位置にし、へそと腋窩の中間の高さに設定します。
- 頸部前屈位にします。
- 食事を正面に配置する。

車椅子の場合の注意

- 足底全面の安定を図ります。
- 車椅子のフットサポートは用いないようにします。



段階的なステップアップ

- 姿勢調整による段階的ステップアップ: 安定した姿勢保持のために枕やクッションなどを適宜活用しながら、上記のように段階的なステップアップを行っていきます。

- ① ベッド上 (リクライニング角度 30 度): 自力食事摂取は禁止 食事全介助
※捕食介助のスプーン的位置は、食品の舌の中央におく。
- ② ベッド上 (リクライニング角度 45 度): 自力食事摂取は禁止 食事全介助
- ② ベッド上 (リクライニング角度 60 度)
- ③ リクライニング車椅子 (リクライニング角度 60 度以上): 自力食事摂取可能
- ⑤ 椅子